

Warm Ember AiREL Healing Seasons 冬シリーズ第3作

消えない小さな温もり 歌詞 AiREL

夕暮れがゆっくり訪れる
冬の空の向こうに
最後の光が消えていき
雪が静かに舞い始める

静かな窓の向こう
世界が白く染まっていく
小さな暖炉の火が
消えかけた光の中で輝いている

今日という一日を手放して
肩の力を抜こう
胸の中にあるすべてを
抱え続けなくてもいい

あたたかな残り火
夜の中で静かに燃えている
あたたかな残り火
小さな心の灯り
冬の風が呼びかけても
世界が冷たくなっても
そばに残ってくれる温もりがある
この手で抱きしめられる温もりがある

部屋がやさしく照らされ
壁に影が揺れている
暖炉の火が静かに囁き
夕暮れがゆっくり訪れる
肩にかけた毛布
静かな一杯のお茶
雪はゆっくり降り続け
時間は私をそのままにしてくれる

何も起こらなくていい
何も変えなくていい
今夜は静かにして
静けさをそのまま感じよう

ああ… 冬の雪の音を聴いて
ああ… 暖炉の光を感じて
ああ… 今日をそっと手放そう
ああ…

あたたかな残り火
夜の中で静かに燃えている
あたたかな残り火

小さな心の灯り
冬の風が呼びかけても
世界が冷たくなっても
そばに残ってくれる温もりがある
この手で抱きしめられる温もりがある

炎は少しずつ小さくなる
それでも静かに輝いている
小さな金色の思い出のように
そっと心に残っていく

ひとつひとつの残り火が
静かな光を抱いている
温もりはいつも
目に見える必要はないと教えてくれる

時にはそれは隠れている
心の奥深くに 決して消えることのない
小さな安心の光として
だからゆっくり息を吸って
夕暮れをそのまま感じよう
今日はもう十分頑張った
今は休んでいい

あたたかな残り火
夜の中で静かに燃えている
あたたかな残り火 小さな心の灯り
冬の風が呼びかけても
世界が冷たくなっても
そばに残ってくれる温もりがある
この手で抱きしめられる温もりがある

ああ… 暖炉が静かに呼吸している
ああ… 雪がゆっくり降っている
ああ… 目を閉じて耳を澄まそう
ああ…

外は静かな夜
雪が地面を覆っていく
やさしい暖炉の火の中では
音さえ必要ない

世界は明日まで待ってくれる
朝には朝の時間がある
今夜は静かな夢と
温かな時間のためにある

もっと強くならなくていい
頑張り続けなくていい
ただ目を閉じて
今日という一日を手放そう

あたたかな残り火
夜の中で静かに燃えている
あたたかな残り火 小さな心の灯り
温もりに包まれて
静けさにそっと抱かれよう
今日という一日を置いていこう
ここでは安心して温まっていい

あたたかな残り火
今夜もそばにいて
あたたかな残り火
小さな光を守って
冷たい夜も暗闇も
静かに降る雪の中でも
この小さな炎が教えてくれる
あなたは決してひとりじゃない

暖炉の火がゆっくり消えていく
それでも温もりは心の中に残っている
雪は静かに降り続ける
静かな冬の夜に

息を吸って…
息を吐いて…

今日を手放そう…

あたたかな残り火…

今夜は暖かく…

おやすみ…